



Title	交河故城
Author(s)	荒川, 正晴
Citation	月刊しにか. 1996, 7(1), p. 66-67
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88453
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【特集】
▼
中国主要遺跡
ガイド

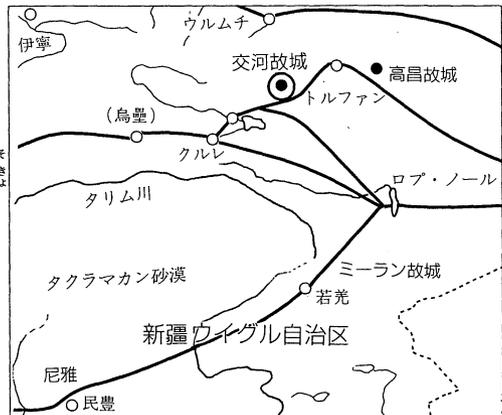
交河故城
こうがこじょう

交河故城は、ヤールホト（雅爾湖、ヤールはウイグル語で崖の意）とも呼ばれるように、河床にはさまれた高さ三〇呎ほどの断崖上に造られた都市遺跡で、南北（正確には西北より東南）一七六〇呎、その間の幅が最も広い所でも約三〇〇呎ほどしかない細長い船形をしている。漢や唐の時代には、豊富な水量をたたえた河がこの城を囲むようにして流れていたと伝えられる。

歴史的に見ると、ここには、遅くとも前漢時代から五世紀中葉まで車師族の王庭（車師前国の都）が置かれていた。車師族は、本来天山北方で遊牧していた民族であり、その一部がトゥルファン盆地に南下して、半農半牧の生活に移行していったと推測されている。民族系統は、アルタイ系ともイラン系とも言われている

が、まだ定説はない。ただし最近では、車師族のものと思われる墓葬が多くトゥルファン周辺で発見されており、そこから出土するものが少なくないと言う。また交河城北方の台地上では、車師前国の王族クラスの墓が発見されたことが報告され、出土品には漢代の五銖銭のほか北方遊牧文化の流れを色濃くとどめる金器・銅器・骨器などが数多く出土している。

実際に車師前国が、交河城を王庭としてどのような城居生活を送っていたのかは詳しくはわからないが、四世紀の段階ともなると、この国は仏教を国教化したとも伝えられ、さらに国王が国師の鳩摩羅仏提を伴い、サンスクリット本の仏典を中国に献上したとも言われる。しかしながら、五世紀中葉には、東方の高昌城



を中心とした沮渠氏高昌国によって滅ぼされ、トゥルファン盆地は漢人勢力の支配するところとなっていった。以後、麴氏高昌国時代には交河郡、唐西州時代には交河県の治所が置かれて漢人の入植が進展することになった。交河故城の西方に存在するヤールホト古墓群は、まさにこの漢人たちの造ったネクロポリス（墓葬域）としての性格をもっている。その後、漢人が歴史の表舞台から姿を消し、

替わってウイグル人がトルファンを統治した西ウイグル王国時代、さらにモンゴル支配時期にも、交河城は城邑として引き続き機能していたが、その政治的重要性は次第に減じた。

城の構造は、先に述べたように崖上に位置しているために城壁はなく、南端と東側さらに西側に城門が存在している。

南門はほとんど原型をとどめていないが、東門は崩壊が進みながらも比較的保存されており、高さ五層の門壁には門額を置いた方洞が残存している。また城内の遺構は、現在、寺院区・居住区・官署区に分けて説明している。

まず寺院区は、中心に延びる大道の北



端に位置する大寺院（建築面積四八〇平方メートル）とそれ以北に広がっており、故城の北部を占めている。調査では、大小併せて仏教建築遺跡が五〇カ所余りあるとされ、中には寺院区の西北隅に地下に造られた面積約五〇〇平方メートルの寺院址が新たに発見されている。発掘の結果、供養人壁画のほか、漢文文書や梵文と古チベット文が記された泥の仏塔などが出土している。また交河城のシンボルともなる寺院区北部の仏塔群は、中心に規模の大きな仏塔を置き、その周囲の四隅に二五個の方形の小さな仏塔を配する形式を取っている。この形式は、高昌故城のP寺院址のそれと同じで、ナーランダールなどにあるインドの五塔形式を想起する研究者もいる。ちなみに、これまでほとんど知られていなかったが、この寺院区のさらに西北方に古墓群が存在しており、なかに車師前国時期の竅穴あるいは竅穴偏室墓や晋から唐の時期の漢人墓があるとされている。

居住区は、中心に延びる大道によって東西に分けられ、東区は間に官署区をは

さみながら、南部に大型居住区、北部に小型居住区を配置している。また西区には、住宅とともに多くの手工業者の作坊があったことが報告されており、故城からの出土品のなかにも、多数の陶器類（陶罐・陶灯（ランプ）やウイグル文字らしきものが残されている陶片など）が含まれている。

官署区とされるところは、故城内でも規模の大きな建築址が認められ、周囲の壁も版築で作られ、その内部も広い地下広場を含む複雑な構造をもっている。研究によれば、交河城の最盛期が唐代にあり、この時代の交河城の特徴が大きく改められずに現遺構にほぼ遺っているとすれば、この建築址は、唐の中央アジア侵略当初に交河城に設置されていた安西都護府そのものの遺構であった可能性が高いとされている。（荒川正晴）

◆ DATA

所在地…新疆ウイグル自治区・吐魯番地区・吐魯番市・雅尔乃孜溝村

時代…紀元前一・二世紀頃? ~ 一五・一六世紀?

参観…可